

こども環境学会2022年定期大会

1.大会テーマ 「クライシスとこどもの環境」

2.会 場 東京都文京区目白台 日本女子大学

3.期 間 6月30日から7月3日にかけて開催

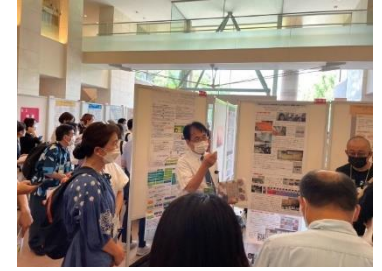
その中、7月2日 12:45-14:15 のポスターセッション
に参加し、活動報告を行なった。



4.ポスターセッション

(1)発表者 「地域の色・自分の色」研究会 代表 照山 龍治 事務局 塩月 孝子

(2)発表テーマ 「子どもたちと、「色」から、身の回りの自然や歴史文化を探究し、活用していく」



(3)ポスターセッションの様子

研究、デザイン、活動の三部門に分かれ、同時に進行した。

私たちの発表は、活動部門の三番目。ブースに約四十名(ほとんど大学関係者)の参加者を迎え説明した。

また、希望者には、入門教材「ふるさとのたからもの」と、探究教材「ふるさとのふしぎ」、実践記録「ふるさとのいろあそび」を研究資料として提供した。



(4)発表概要

①「取り組みの背景と目的」

私たちの研究会は、2014年に立ち上げ、色という視点から地域の素晴らしさと、そこで生まれ育った自分の良さを再発見することを目的に活動を続けている。

その中で、新たな教育と振興策を模索していた別府地域で当研究会の成果を活用したいと考えた。

2020年度には、「色探し」から身近な自然や歴史文化に関心を向ける入門教材「ふるさとのたからもの」を作成し、小学校等で検証実践も行った。

その検証実践の中で、子どもたちは、「何故？」を繰り返し、綺麗な宝物の発色要因や地獄の泥の細かい粒子の成因など、さらには、地獄の泥と古墳の装飾、火山岩と街並みという自然と歴史文化との関係にも関心を示した。

そして、学校外でも、身近な自然や歴史文化を話題にする子どもたちの姿、地獄めぐりや市街地めぐり等で教材の物語を辿る家族の姿、さらに、「教育を支援するのは私たちの義務だ」と言いながら、赤い熱泥を顔料として提供し、作品を施設内に長期展示するなど学校との連携を模索する血の池地獄など、観光施設の動きも見られた。

そこで、地域ぐるみで推進するには、学校・家庭・地域が一体となって取り組める共通の教材が必要だと考えた。

そのため、2021年度は、子どもたちが体験し不思議を感じたことを科学的に体系化した探究教材「ふるさとのふしぎ」を作成した。

子どもたちは、それを教材として、教科を超えて学び。地域の人達が、それを手引書として、身の回りの自然や歴史文化を地域の宝物として捉え直し、地域創生に活用することを目指した。

②「教育効果の検証」

まず、研究協力校である別府市立鶴見小学校の三年生が、探究教材の作成に併せ、「色探し」で見つけた不思議を、「色」を通して科学的に解き明かす実践を行なった。

例えば、「紫キャベツを使った温泉の性質分析」や「地獄や火山岩の発色要因の解明」などだ。

そして、地獄の泥といろいろな色の色紙を組み合わせた絵画表現にも挑戦した。

また、明星幼稚園の5歳児を対象とした検証実践もおこないました。テーマは5点、

「教材との出会い」「色水作りや絵の具との出会い」「地域の自然や歴史文化との出会い」「材料や道具との出会い」「地域の人たちとの出会い」である。

その中で、子どもたちの色々な声があった。

「地獄の色きれい」「あかい」「あおい」「お部屋にも、窓の外にも色がある」「花や実にも色がある」「土にも色がある」「地獄の泥でも絵が描けるかな」「布は染まるかな」「みんなに見せたい」「お家の人にプレゼント」「地獄の泥で染めたよ」「地獄めぐりにいきたい」などだ。

このように、5歳児も「色」を通して身近な自然や歴史文化と直に触れることで、関心が広がり、深まり、不思議を「知りたい」「伝えたい」に向かうことが見えた。

③「地域ぐるみの取り組み・県内外への普及」

このように、一定の効果が見られたので、別府地域全体に広げ、さらに、県内の他市町村や県外へ普及させることを目指した。

そのため、まず、二つの教材を県立図書館や別府市の全公立幼稚園・全小中学校の図書館に置き、学校と園から、活用に向けての意見をもらった。

さらに、研究協力校の鶴見小学校三年生が、「色」という視点から、地獄の「泥の特性」をまとめ、「色」から学んだ「別府学」として、第68回別府市教育祭において発表した。

次に、研究会が血の池地獄などに設置した「こども『色』博物館」に、子どもたちが地獄の泥で作成した染め物や書、実践の成果を展示した。

その中で、「こんなことが出来る貴方たちがうらやましい。大阪の先生より」など162件、県内外の方から多くの激励のご意見をもらった。

さらに、ホームページ「色博物館」も整備した。その中では、教材の原稿や子どもたちの絵・染め物、実践の状況や研究成果を掲載している。

未来志向の地域創生とは、地域の未来を担う子どもたちと今を担う私たちが、地域の自然や歴史や文化から、地域の宝物を掘り起こし、その価値を知り、それを活用して、自ら作り上げていくものだとは私たちは信じている。

(5)質問「なぜ、三年生を対象としたのか」→「三年生は、低学年から高学年に移る、学習のレベルが大きく変化する時期。そのため、三年生を対象とした。」

「なぜ、別府を対象としたのか」→「色が豊富な別府で、モデルを作りたかった。別府には、こだわっていない。対象地域は、当面、県全域」と考えている。

(6)参加者からの意見

「色」を切り口とした地域教育、画期的な取り組みと思っている。去年は、学校を対象とした取り組みと想っていたが、ポスターセッションを聞いて、ここまで広がっていることは驚きである。

是非、継続して、来年も、この学会で進捗状況を聞かせてほしい。